

様式1 **令和5年度 清瀬市立清瀬第六小学校 学校評価計画**

<b>学校の教育目標</b>	<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b>
よく考えずんで行動する子供 仲良く力を合わせる子供 健康で心豊かな子供	○「人権尊重の精神」を基調とした思考・判断・実践する教育
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>	・「自他のよさ」に気付き、人格を大切にできる教育 ・社会に存在する差別に気付き、許さず、解消しようとする教育 ・児童自らの思考を認識させる教育 ・体力を身体的・精神的、行動・防衛に分類し系統的に行う教育 ・地域の人々と積極的に関わる教育
【目指す学校像】 自己肯定感を高めさせ、次代を担う子供を育てている学校	○学びを追究し知的欲求が旺盛な教育
【目指す児童・生徒像】 自分を見つめ、自分を肯定的に考えることのできる子供	○体力を分析的にとらえた体力向上の教育
【目指す教師像】 常に子供を主語に置いて、指導を行う教師	○将来にわたって地域に貢献する教育

**前年度までの学校経営上の成果と課題**

○ 特別支援について、教員が共通理解のもと日々の教育活動で児童が自ら課題解決の手段を選択できるようにする手法を取り入れるようになってきた。

● 自己肯定感を十分に高めることができないことが一因となり、他者を卑下したり登校渋りを行う児童がいる。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	学びを追究し、知的欲求が旺盛な児童を育成する	児童一人一人の課題に応じた学習活動を展開する	特別支援教育の視点を取り入れ、児童一人一人が自らの学び方を選択する授業を行う。	4 年6回以上管理職による授業観察を行い、指導・助言 3 年4回以上管理職による授業観察を行い、指導・助言 2 年2回以上管理職による授業かんさを行い、指導・助言 1 年2回未満管理職による観察授業を行い、指導・助言	4 90%以上の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択 3 80%以上の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択 2 70%以上の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択 1 70%未満の児童が、自己の課題を認識し自ら学び方を選択
		学習習慣を確立し、既習の学習内容の定着を図る	既習の学習内容を確認した上で新たな内容の指導を行うとともに、ICT機器の活用も図りながら家庭に働きかけ、家庭学習の充実も図る。	4 年4回以上「学校だより」「学年だより」でICTを活用した家庭学習の有用性を保護者に伝達 3 年3回以上「学校だより」「学年だより」でICTを活用した家庭学習の有用性を保護者に伝達 2 年2回以上「学校だより」「学年だより」でICTを活用した家庭学習の有用性を保護者に伝達 1 年2回未満「学校だより」「学年だより」でICTを活用した家庭学習の有用性を保護者に伝達	4 80%以上の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解 3 70%以上の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解 2 60%以上の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解 1 60%未満の保護者が、ICTを活用した家庭の有用性も理解
豊かな心の育成	「人権尊重の精神」を基調とした思考・判断・実践できる児童を育成する	人権尊重の精神に基づき、自己肯定感・自己有用感の高い児童を育成する	地域社会と連携し成功体験を多くさせる中で、児童が自己の特性に気付き、それを活かそうとすることができる活動を展開する。	4 年4回以上の校長講話で個性と向き合うためのアンケートを行い、結果を全教員で共有する。 3 年3回以上の校長講話で個性と向き合うためのアンケートを行い、結果を全教員で共有する。 2 年2回以上の校長講話で個性と向き合うためのアンケートを行い、結果を全教員で共有する。 1 年2回未満の校長講話で個性と向き合うためのアンケートを行い、結果を全教員で共有する。	4 全児童が、個性と向き合いかけがえのない一人として自分を理解 3 90%以上の児童が、個性と向き合いかけがえのない一人として自分を理解 2 70%以上の児童が、個性と向き合いかけがえのない一人として自分を理解 1 70%未満の児童が、個性と向き合いかけがえのない一人として自分を理解
		教育活動全体をととして、生命尊重の精神を育成する	地域社会も言の多くの入りの関わりの中で、お互いに見守られ、見守る中で大切にされ生活をしていることが実感できる活動を展開する。	4 月平均3回以上親や地域の方等様々な人に見守られていることを月曜朝会や学級指導で指導 3 月平均2回以上親や地域の方等様々な人に見守られていることを月曜朝会や学級指導で指導 2 月平均1回以上親や地域の方等様々な人に見守られていることを月曜朝会や学級指導で指導 1 月平均1回未満親や地域の方等様々な人に見守られていることを月曜朝会や学級指導で指導	4 全児童が、様々な人々に見守られていると実感 3 90%以上の児童が、様々な人々に見守られていると実感 2 70%以上の児童が、様々な人々に見守られていると実感 1 70%未満の児童が、様々な人々に見守られていると実感
健やかな体の育成	自他の健康について考え、行動し生涯にわたって生き活きと活動できる児童を育成する	運動の手特性に親しみ、生涯にわたって体力向上を図ろうとする児童を育成する	東京都統一体力テストに準じてテスト結果を分析するとともに、体育部を中心とした教員による模範授業を行い改善した授業を展開する。	4 年3回以上、模範授業の校内公開 3 年2回以上、模範授業の校内公開 2 年1回以上、模範授業の校内公開 1 模範授業の校内公開の未実施	4 全教員が、体育の授業を改善 3 90%以上の教員が、体育の授業を改善 2 70%以上の教員が、体育の授業を改善 1 70%未満の教員が、体育の授業を改善
		自らの健康について自己管理しようとする児童を育成する	栄養士による食育の視点から健康を考えさせる学習活動を展開するとともに、生活点検カード等により常に自らの生活をふりかえさせる。	4 年6回以上、栄養士による食育指導 3 年5回以上、栄養士による食育指導 2 年3回以上、栄養士による食育指導 1 年3回未満、栄養士による食育指導	4 全児童が、食から自分の健康について思考 3 70%以上の児童が、食から自分の健康について思考 2 60%以上の児童が、食から自分の健康について思考 1 60%未満の児童が、食から自分の健康について思考
特別支援教育の充実	特別支援教育の理念に基づき、児童一人一人の課題の解決に向けた指導を展開し、自己の特性を社会に生かす指導を育成する	特別支援教育の理念を発達段階に応じて児童に理解させ、日々生活の中で個性を生かせる児童を育成する	全教科・領域を通して、自然の摂理・偉人の生き方について取り上げ、個性を生かした生き方を考えさせる。	4 全教員が年4回以上自然の摂理・偉人(地域の歴史・人に視点を当て)の生き方を取り上げた授業 3 80%以上の教員が年4回以上自然の摂理・偉人(地域の歴史・人に視点を当て)の生き方を取り上げた授業 2 60%以上の教員が年4回以上自然の摂理・偉人(地域の歴史・人に視点を当て)の生き方を取り上げた授業 1 80%未満の教員が年4回以上自然の摂理・偉人(地域の歴史・人に視点を当て)の生き方を取り上げた授業	4 全児童が、自分の個性を生かした生活について思考 3 70%以上の児童が、自分の個性を生かした生活について思考 2 60%以上の児童が、自分の個性を生かした生活について思考 1 60%未満の児童が、自分の個性を生かした生活について思考
		特別支援教育を中心として校内研究に取り組み、児童一人一人に応じた学習活動を展開し個性の伸長を図る。	教員一人一人が、発達や障害について理解し、その上で児童一人一人の特性に応じた指導を行う。	4 全教員が、発達障害の理解に基づいた授業 3 90%以上の教員が、発達障害の理解に基づいた授業 2 70%以上の教員が、発達障害の理解に基づいた授業 1 70%未満の教員が、発達障害の理解に基づいた授業	4 全児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長 3 90%以上の児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長 2 70%以上の児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長 1 70%未満の児童が、授業で自分の課題(自らの強みも含め)を解決・伸長
本校の特色	地域の伝統や文化を理解・尊重し、愛着と誇りをもつ指導を行い、清瀬に愛着と誇りをもつ児童を育成する	コミュニティスクールとして、児童自ら地域社会と積極的に関わる児童を育成する。	発達段階に応じて、地域や本校の自然物や人物について関連した課題を設定し、地域社会にかかわる教育活動を行う。	4 全学級で、地域の一員として自らの発想で地域社会とかかわる教育活動を展開 3 90%以上の学級で、地域の一員として自らの発想で地域社会とかかわる教育活動を展開 2 80%以上の学級で、地域の一員として自らの発想で地域社会とかかわる教育活動を展開 1 80%未満の学級で、地域の一員として自らの発想で地域社会とかかわる教育活動を展開	4 90%以上の児童が、自らの発想で地域社会にかかわっている 3 70%以上の児童が、自らの発想で地域社会にかかわっている 2 50%以上の児童が、自らの発想で地域社会にかかわっている 1 50%未満の児童が、自らの発想で地域社会にかかわっている
		地域の特性を理解させ、地域に生きる一員としての自覚を育て、将来にわたって地域に貢献しようとする児童を育成する	学校地域支援本部など地域社会で学校を支えている人々に目を向け、生活科や道徳の時間を中心に将来地域社会に生きる一員としての自覚を高めさせる。	4 全学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開 3 90%以上の学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開 2 80%以上の学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開 1 80%未満の学級で、将来の地域の様子を想像する学習活動を展開	4 全児童が、将来地域に貢献している自分を想起 3 90%以上の児童が、将来地域に貢献している自分を想起 2 80%以上の児童が、将来地域に貢献している自分を想起 1 80%未満の児童が、将来地域に貢献している自分を想起